

## 第2章

集計結果に基づくビジョンに  
関連した分析結果



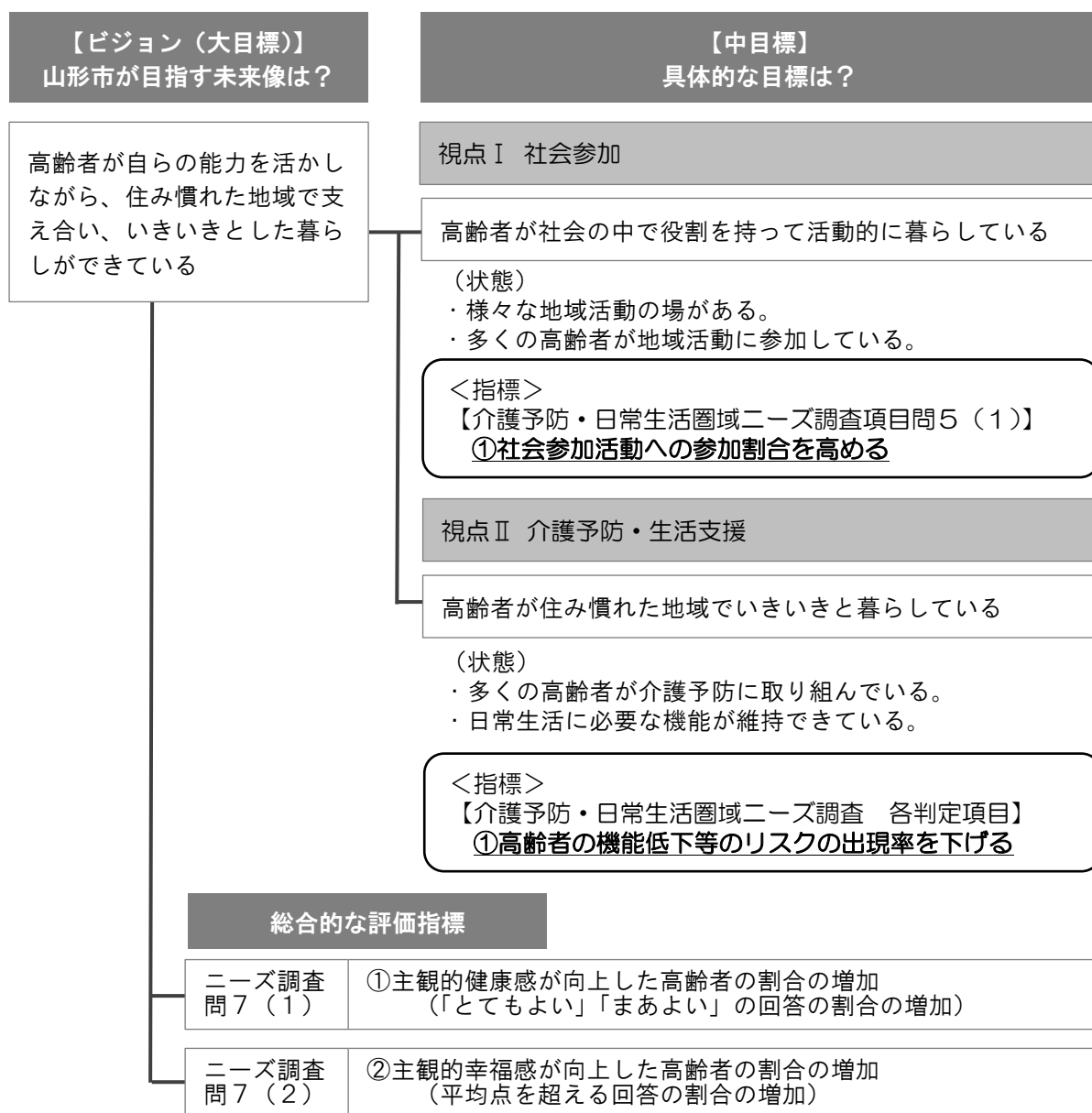
## 第2章 集計結果に基づくビジョンに関連した分析結果

第2章は、本市が設定するビジョンの達成に関連した指標を導き出すため、調査の集計結果をもとに、 $\chi^2$ （カイ二乗）検定<sup>※1</sup>を用いて分析を行いました。

ビジョンは、「一般高齢者等」と要介護者等の2つに分けて大目標を設定し、さらに、高齢者の状態や立場による視点ごとに中目標を設定しています。また、大目標・中目標には、その達成状況を示す指標を設定しています。

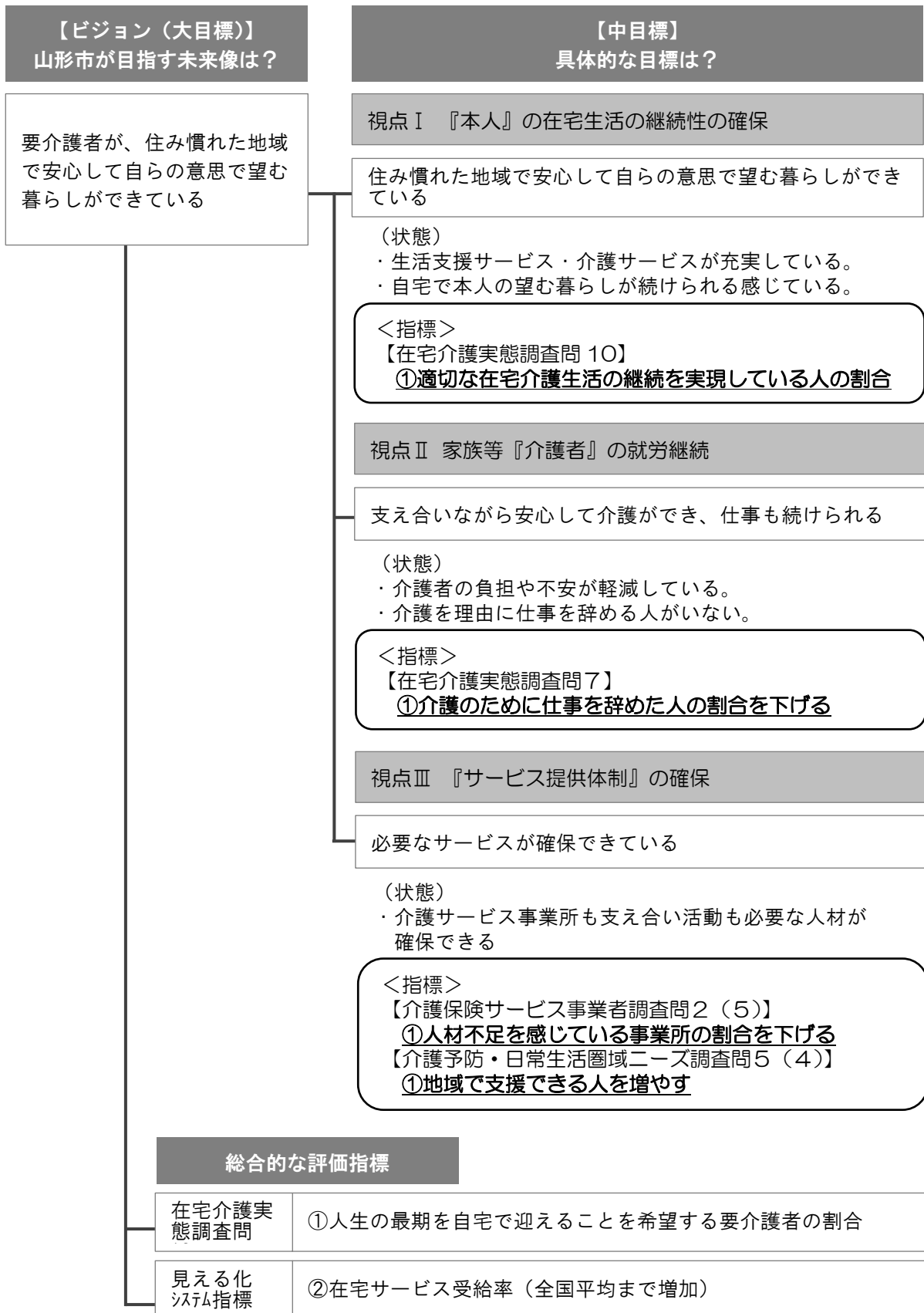
分析結果は、大目標・中目標に設定した指標を効果的・効率的に達成するための取組（小目標）の設定に用います。

図2.1 一般高齢者等のビジョン



※1  $\chi^2$ （カイ二乗）検定とは、帰無仮説が正しい場合の検定統計量が漸近的にカイ二乗分布に従うような統計的検定法の総称。2つの独立した変数に有意差がみられない「帰無仮説」とそれに対立する「対立仮説」を設定し、帰無仮説の元で検定統計量がその値となる確率p値を求め、p値が有意水準とされる0.05以下の場合、帰無仮説を偽として棄却し、対立仮説が採択される。

図2.2 要介護者等のビジョン



※本章における図表見出しの設問番号については、「高齢者の健康と生活状況調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）」の設問番号は『問1』、「高齢者の生活と介護者の就労状況調査（在宅介護実態調査）」の設問番号は『問1』のように表記しています。

## 1 一般高齢者等のビジョンに関連した分析

### (1) 社会参加

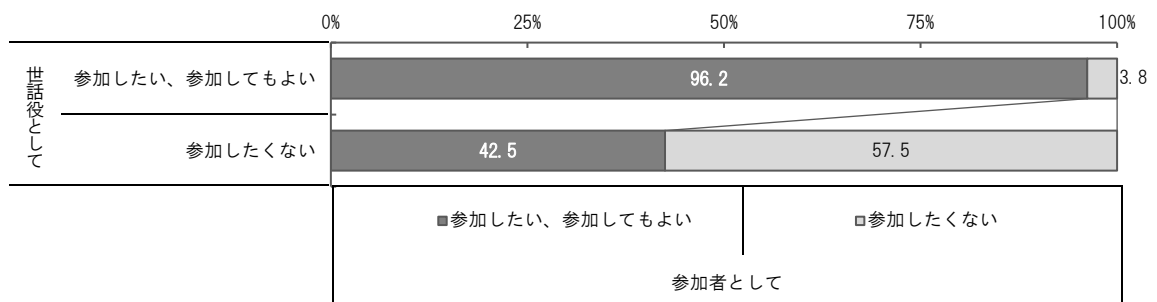
○世話役としての社会参加意向と参加者としての社会参加意向の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、世話役として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、参加者として「参加したい、参加してもよい」割合が高くなっています。

表2.1 問5-(3) 世話役としての社会参加意向×問5-(2) 参加者としての社会参加意向の分割表

		参加者として		
		参加したい、参加してもよい	参加したくない	合計
世話役として	参加したい、参加してもよい	3,489	137	3,626
	期待値	2443.9	1182.1	
	参加したくない	1,787	2,415	4,202
	期待値	2832.1	1369.9	
	合計	5,276	2,552	7,828

p 値=0.000

図2.3 問5-(3) 世話役としての社会参加意向×問5-(2) 参加者としての社会参加意向



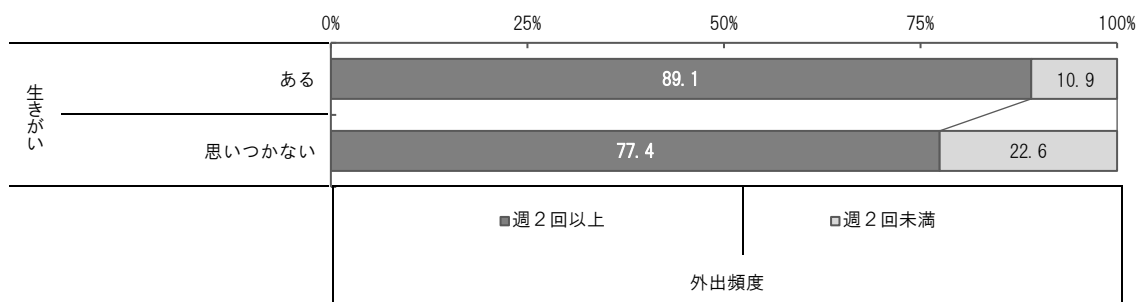
○生きがいの有無と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、生きがいがあるグループは、「思いつかない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.2 問4(18) 生きがいの有無×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
生きがい	ある	4,696	576	5,272
	期待値	4,506.6	765.4	
	思いつかない	1,822	531	2,353
	期待値	2,011.4	341.6	
	合計	6,518	1,107	7,625

p値=0.000

図2.4 問4(18) 生きがいの有無×問2(6) 外出頻度



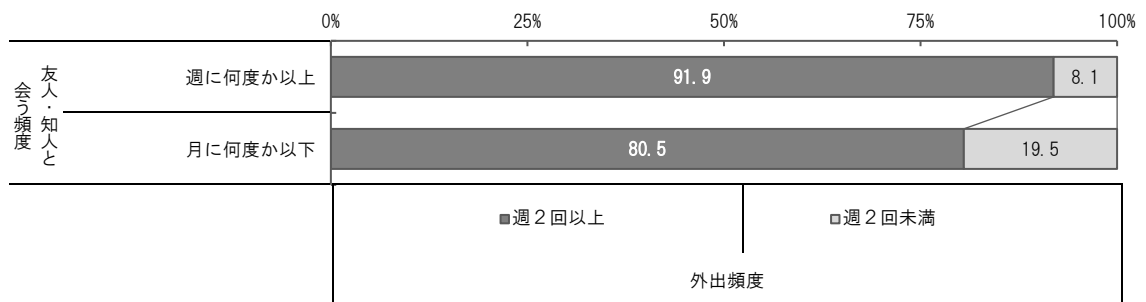
○友人・知人と会う頻度と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ（p 値=0.000）、友人・知人と会う頻度が「週に何度か以上」のグループは、「月に何度か以下」のグループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.3 問6(6) 友人・知人と会う頻度×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
友人・知人と会う頻度	週に何度か以上	2,904	255	3,159
	期待値	2,684.5	474.5	
	月に何度か以下	3,947	956	4,903
	期待値	4,166.5	736.5	
	合計	6,851	1,211	8,062

p値=0.000

図2.5 問6(6) 友人・知人と会う頻度×問2(6) 外出頻度



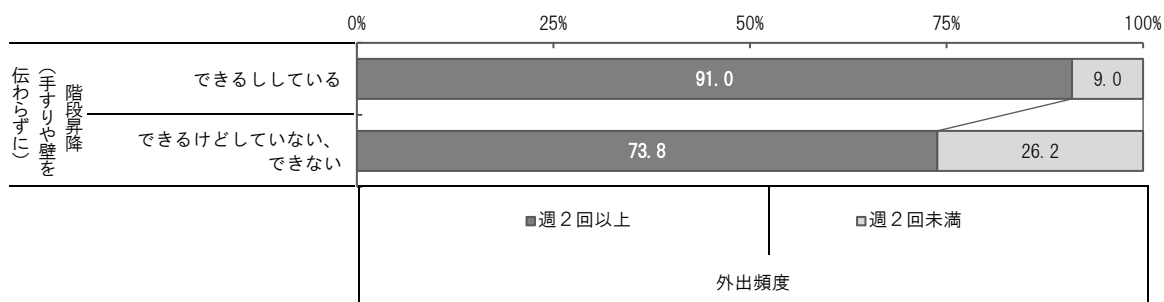
○階段昇降と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、階段昇降を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.4 問2(1) 階段昇降×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
(手すりや壁を伝わずに) 階段昇降	できるししている	4,970	494	5,464
	期待値	4,642.1	821.9	
	できるけどしていない、できない	2,175	771	2,946
	期待値	2,502.9	443.1	
	合計	7,145	1,265	8,410

p 値=0.000

図2.6 問2(1) 階段昇降×問2(6) 外出頻度





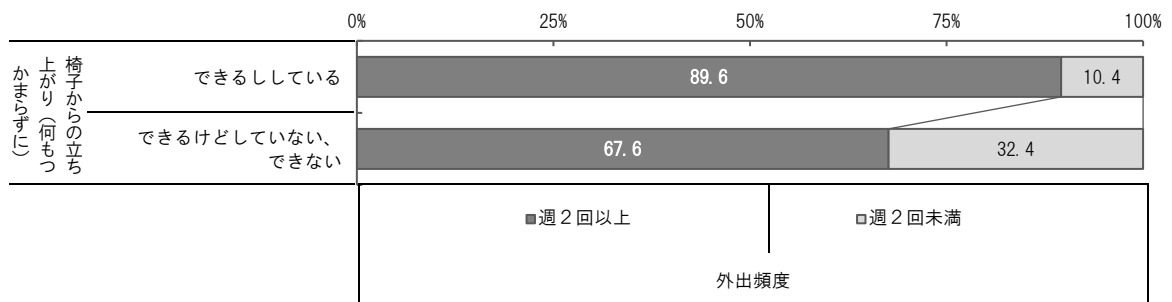
○椅子からの立ち上がりと外出頻度の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、椅子からの立ち上がりが「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.5 問2(2) 椅子からの立ち上がり×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
(何もつかまらずに) 椅子からの立ち上がり	できるししている	5,968	695	6,663
	期待値	5,662.9	1,000.1	
	できるけどしていない、できない	1,189	569	1,758
	期待値	1,494.1	263.9	
合計		7,157	1,264	8,421

p値=0.000

図2.7 問2(2) 椅子からの立ち上がり×問2(6) 外出頻度



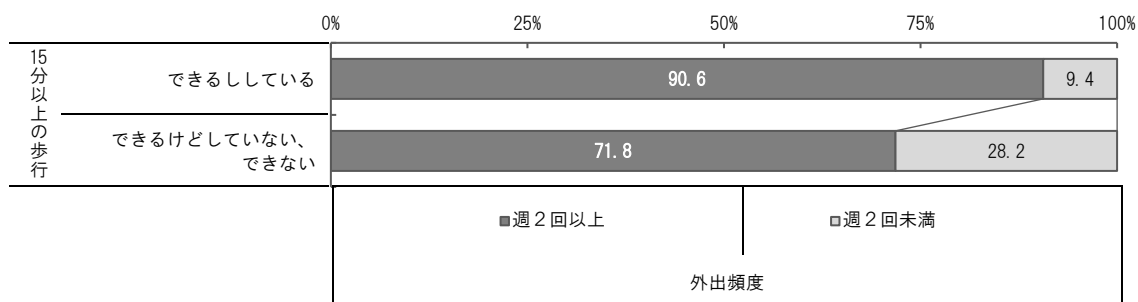
○15分以上の歩行と外出頻度の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、15分以上の歩行を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、外出頻度が「週2回以上」の割合が高くなっています。

表2.6 問2(3) 15分以上の歩行×問2(6) 外出頻度の分割表

		外出頻度		
		週2回以上	週2回未満	合計
15分以上の歩行	できるししている	5,349	555	5,904
	期待値	5,016.0	888.0	
	できるけどしていない、できない	1,819	714	2,533
	期待値	2,152.0	381.0	
	合計	7,168	1,269	8,437

p値=0.000

図2.8 問2(3) 15分以上の歩行×問2(6) 外出頻度



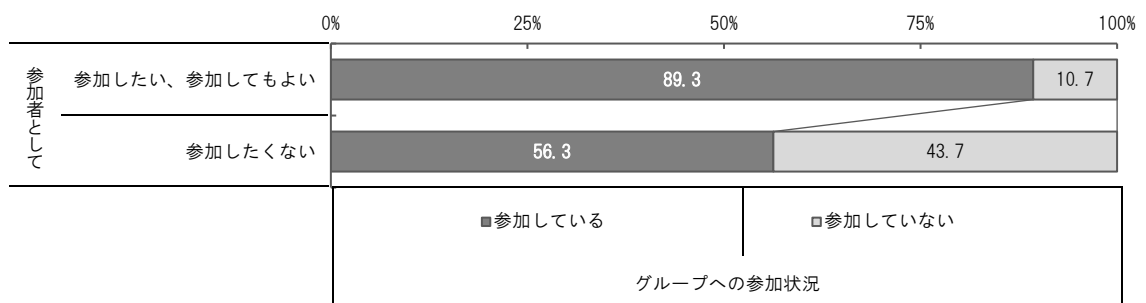
○参加者としての社会参加意向とグループへの参加状況の分割表をみると有意差がみられ（p値=0.000）、参加者として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、グループへの参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.7 問5-(2) 参加者としての社会参加意向×問5(1) グループへの参加状況の分割表

		グループへの参加状況		
		参加している	参加していない	合計
参加者として	参加したい、参加してもよい	4,714	563	5,277
	期待値	4,179.7	1,097.3	
	参加したくない	1,312	1,019	2,331
	期待値	1,846.3	484.7	
	合計	6,026	1,582	7,608

p値=0.000

図2.9 問5-(2) 参加者としての社会参加意向×問5(1) グループへの参加状況



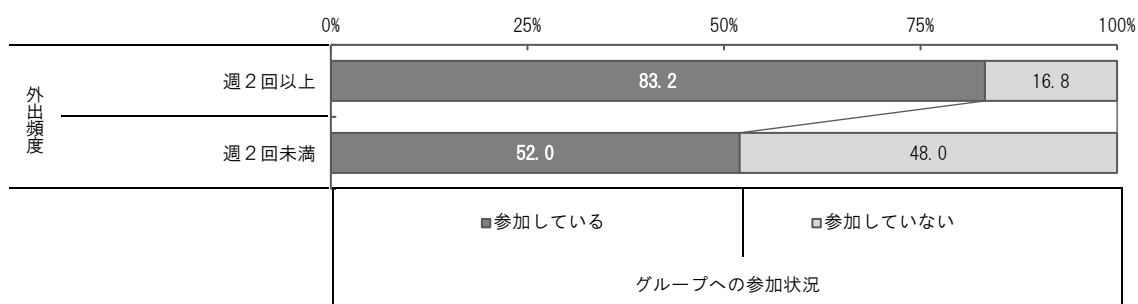
○外出頻度とグループへの参加状況の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、外出頻度が「週2回以上」のグループは、「週2回未満」のグループより、グループへの参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.8 問2(6) 外出頻度×問5(1) グループへの参加状況の分割表

		グループへの参加状況		
		参加している	参加していない	合 計
外出頻度	週2回以上	5,524	1,116	6,640
	期待値	5,234.4	1,405.6	
	週2回未満	561	518	1,079
	期待値	850.6	228.4	
	合 計	6,085	1,634	7,719

p 値=0.000

図2.10 問2(6) 外出頻度×問5(1) グループへの参加状況



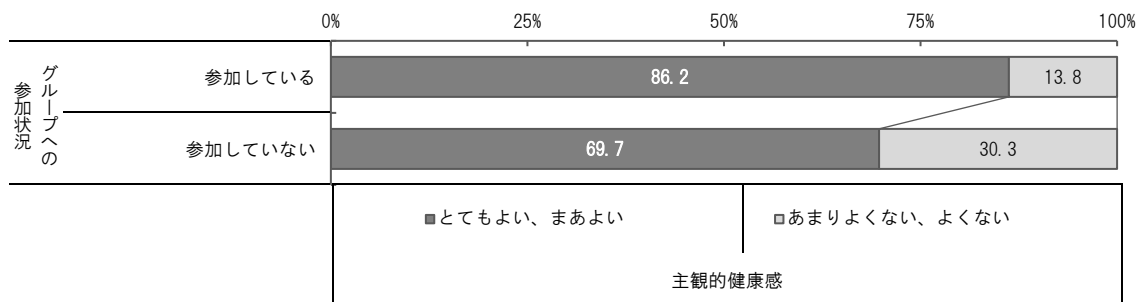
○グループへの参加状況と主観的健康感の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、グループへの参加状況で「参加している」グループは、「参加していない」グループより、主観的健康感で「とてもよい、まあよい」の割合が高くなっています。

表2.9 問5(1) グループへの参加状況×問7(1) 主観的健康感の分割表

		主観的健康感		
		とてもよい、まあよい	あまりよくない、よくない	合 計
グループへの参加状況	参加している	5,136	820	5,956
	期待値	4,928.6	1,027.4	
	参加していない	1,110	482	1,592
	期待値	1,317.4	274.6	
	合 計	6,246	1,302	7,548

p値=0.000

図2.11 問5(1) グループへの参加状況×問7(1) 主観的健康感



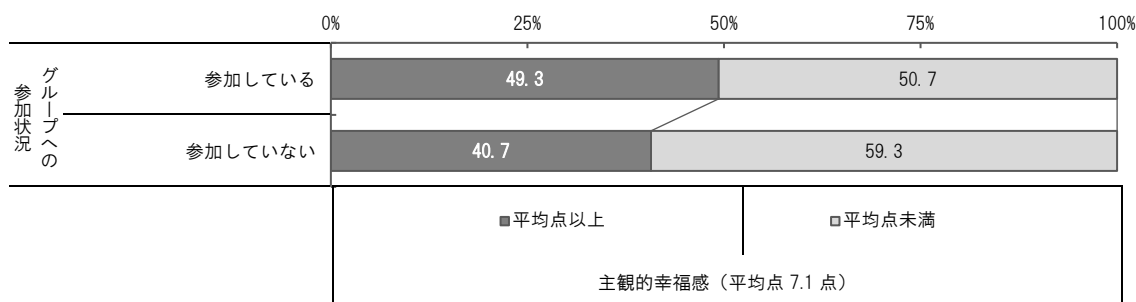
○グループへの参加状況と主観的幸福感の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、グループへの参加状況で「参加している」グループは、「参加していない」グループより、主観的幸福感で「平均点(7.1点)以上」の割合が高くなっています。

表2.10 問5(1) グループへの参加状況×問7(2) 主観的幸福感の分割表

		主観的幸福感 (平均点 7.1 点)		
		平均点以上	平均点未満	合 計
グループへの参加状況	参加している	2,917	2,997	5,914
	期待値	2,810.1	3,103.9	
	参加していない	640	932	1,572
	期待値	746.9	825.1	
	合 計	3,557	3,929	7,486

p値=0.000

図2.12 問5(1) グループへの参加状況×問7(2) 主観的幸福感



## (2) 介護予防、生活支援

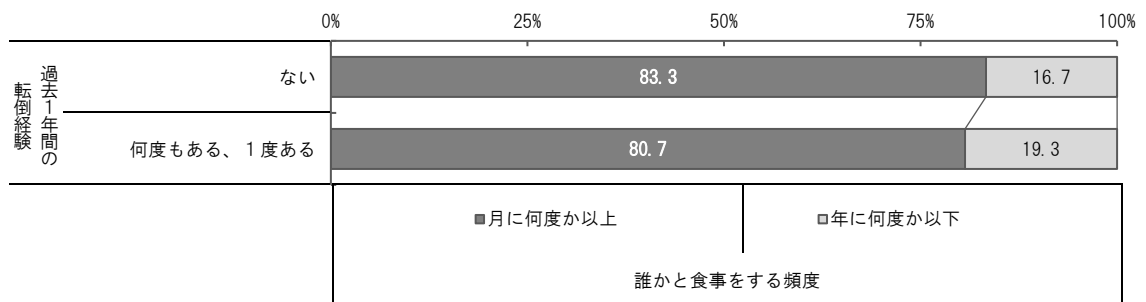
○転倒経験の有無と誰かと食事をする頻度の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.004)、過去1年間の転倒経験が「ない」グループは、「何度もある、1度ある」グループより、誰かと食事をする頻度で「月に何度か以上」の割合が高くなっています。

表2.11 問2(4) 転倒経験の有無×問3(8) 誰かと食事をする頻度の分割表

		誰かと食事をする頻度		
		月に何度か以上	年に何度か以下	合計
過去1年間の 転倒経験	ない	4,946	990	5,936
	期待値	4,902.0	1,034.0	
	何度もある、1度ある	1,843	442	2,285
	期待値	1,887.0	398.0	
	合計	6,789	1,432	8,221

p値=0.004

図2.13 問2(4) 転倒経験の有無×問3(8) 誰かと食事をする頻度



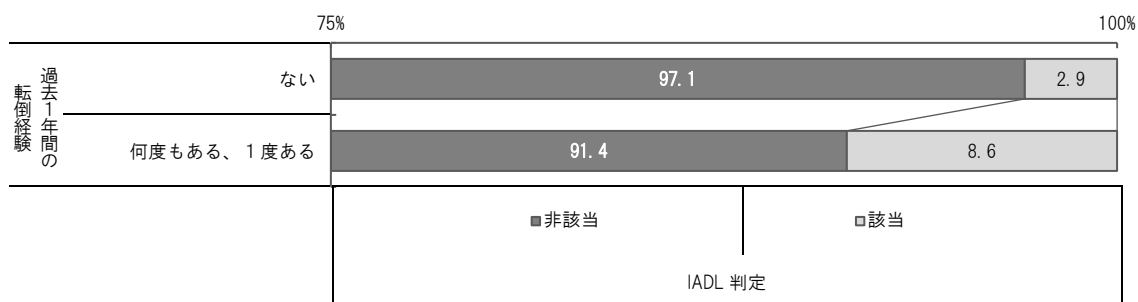
○転倒経験の有無とIADL判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、過去1年間の転倒経験が「ない」グループは、「何度もある、1度ある」グループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.12 問2(4) 転倒経験の有無×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
過去1年間の 転倒経験	ない	5,720	173	5,893
	期待値	5,627.3	265.7	
	何度もある、1度ある	2,074	195	2,269
	期待値	2,166.7	102.3	
	合計	7,794	368	8,162

p値=0.000

図2.14 問2(4) 転倒経験の有無×IADL判定





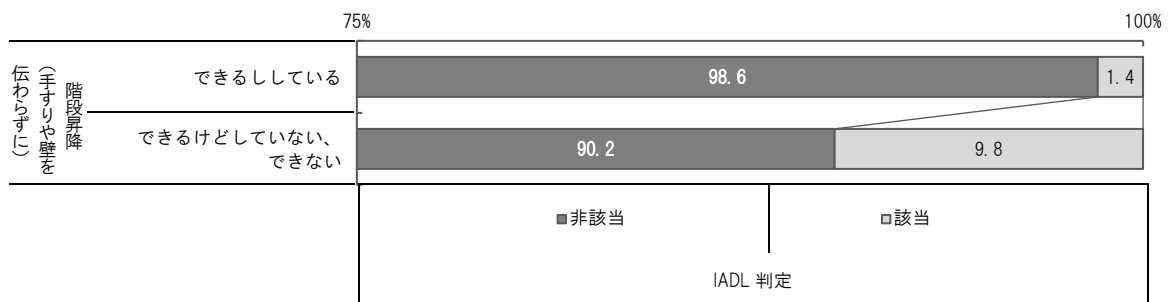
○階段昇降とIADL判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、階段昇降を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.13 問2(1) 階段昇降×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合 計
(手すりや壁を伝わらずに) 階段昇降	できるししている	5,194	76	5,270
	期待値	5,039.1	230.9	
	できるけどしていない、できない	2,575	280	2,855
	期待値	2,729.9	125.1	
	合 計	7,769	356	8,125

p 値=0.000

図2.15 問2(1) 階段昇降×IADL判定



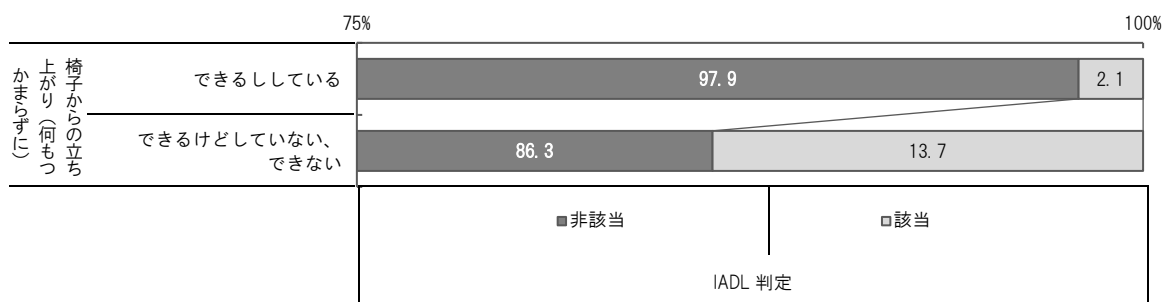
○椅子からの立ち上がりとIADL判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、椅子からの立ち上りを「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.14 問2(2) 椅子からの立ち上がり×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合 計
(何もつかまらずに)椅子からの立ち上がり	できるししている	6,302	132	6,434
	期待値	6,145.4	288.6	
	できるけどしていない、できない	1,469	233	1,702
	期待値	1,625.6	76.4	
合 計		7,771	365	8,136

p値=0.000

図2.16 問2(2) 椅子からの立ち上がり×IADL判定



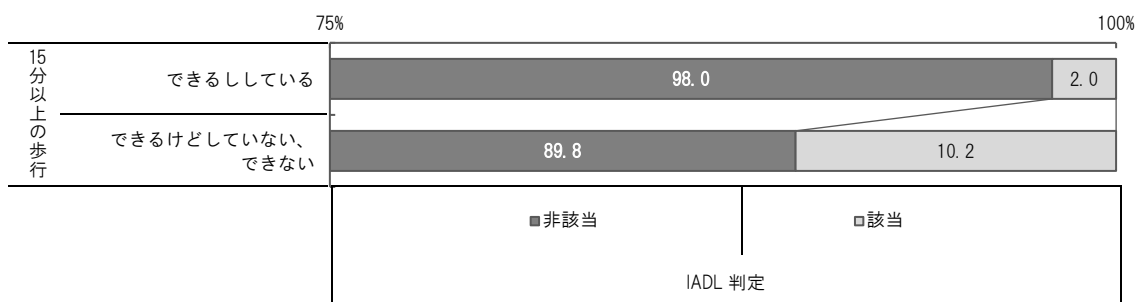
○15分以上の歩行とIADL判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、15分以上の歩行を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.15 問2(3) 15分以上の歩行×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
15分以上の歩行	できるししている	5,590	116	5,706
	期待値	5,450.4	255.6	
	できるけどしていない、できない	2,194	249	2,443
	期待値	2,333.6	109.4	
	合計	7,784	365	8,149

p値=0.000

図2.17 問2(3) 15分以上の歩行×IADL判定



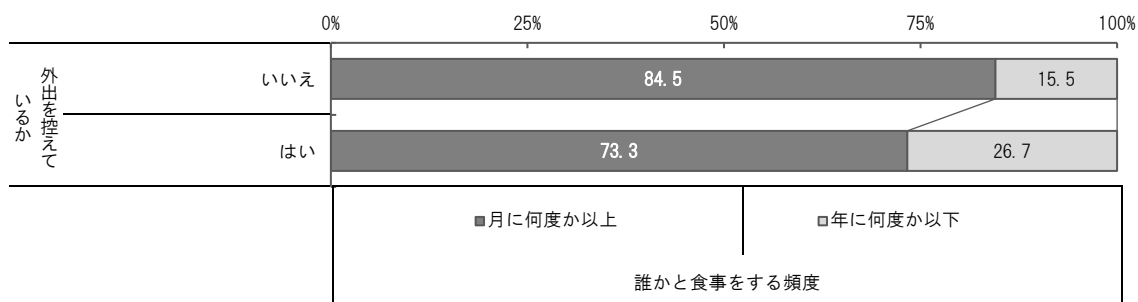
○外出を控えているかと誰かと食事をする頻度の分割表をみると有意差がみられ（p 値 =0.000）、外出を控えているかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、誰かと食事をする頻度で「月に何度か以上」の割合が高くなっています。

表2.16 問2(8) 外出を控えているか×問3(8) 誰かと食事をする頻度の分割表

		誰かと食事をする頻度		
		月に何度か以上	年に何度か以下	合 計
外出を控えているか	いいえ	5,741	1,051	6,792
	期待値	5,609.0	1,183.0	
	はい	1,044	380	1,424
	期待値	1,176.0	248.0	
	合 計	6,785	1,431	8,216

p値=0.000

図2.18 問2(8) 外出を控えているか×問3(8) 誰かと食事をする頻度



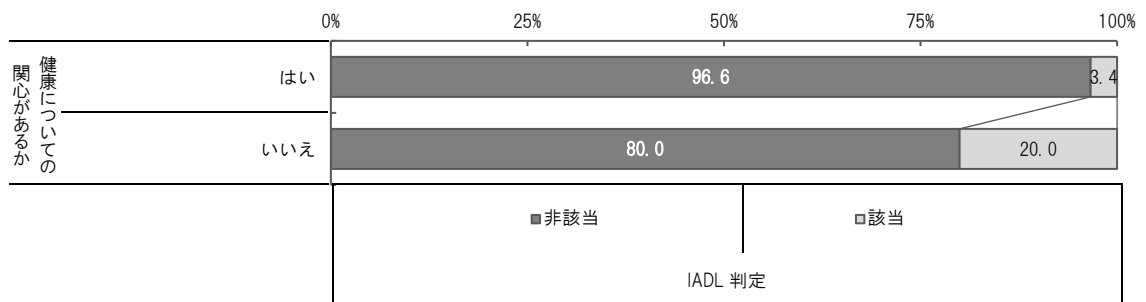
○健康への関心があるかとIADL判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、健康への関心があるかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.17 問4(12) 健康への関心があるか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
健康についての関心があるか	はい	7,475	261	7,736
	期待値	7,392.5	343.5	
	いいえ	423	106	529
	期待値	505.5	23.5	
	合計	7,898	367	8,265

p値=0.000

図2.19 問4(12) 健康への関心があるか×IADL判定



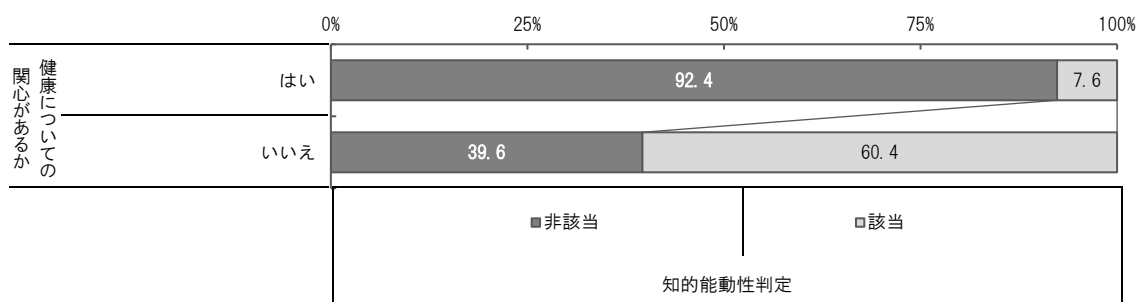
○健康への関心があると知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、  
 ○健康への関心があるかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.18 問4(12) 健康への関心があるか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
健康 について の関心 が あるか	はい	7,246	599	7,845
	期待値	6,981.9	863.1	
	いいえ	212	323	535
	期待値	476.1	58.9	
	合計	7,458	922	8,380

p値=0.000

図2.20 問4(12) 健康への関心があるか×知的能動性判定



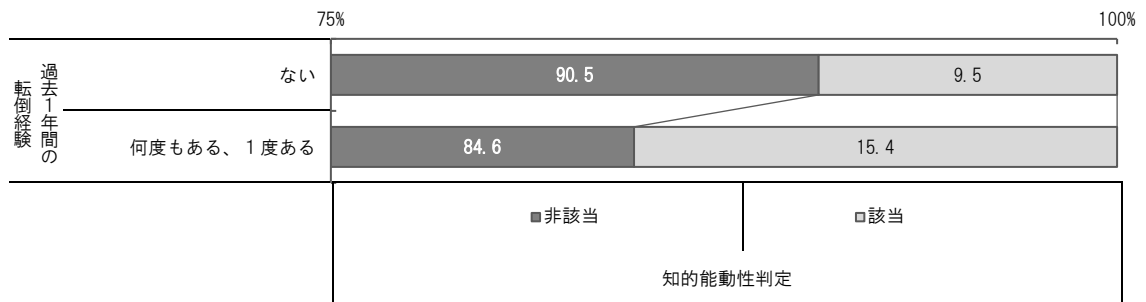
○転倒経験の有無と知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、過去1年間の転倒経験が「ない」グループは、「何度もある、1度ある」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.19 問2(4) 転倒経験の有無×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
過去1年間の 転倒経験	ない	5,408	567	5,975
	期待値	5,311.0	664.1	
	何度もある、1度ある	1,934	351	2,285
	期待値	2,031.1	254.0	
	合計	7,342	918	8,260

p値=0.000

図2.21 問2(4) 転倒経験の有無×知的能動性判定



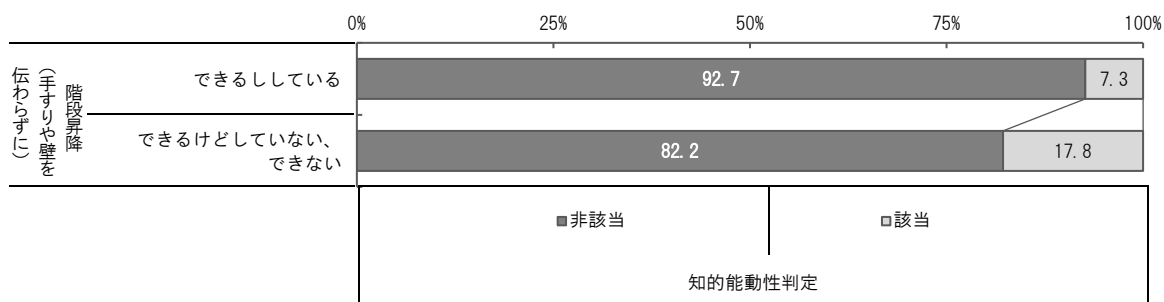
○階段昇降と知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、階段昇降を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.20 問2(1) 階段昇降×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
(手すりや壁を伝わずに) 階段昇降	できるししている	4,942	392	5,334
	期待値	4,746.0	588.0	
	できるけどしていない、できない	2,371	514	2,885
	期待値	2,567.0	318.0	
	合計	7,313	906	8,219

p値=0.000

図2.22 問2(1) 階段昇降×知的能動性判定





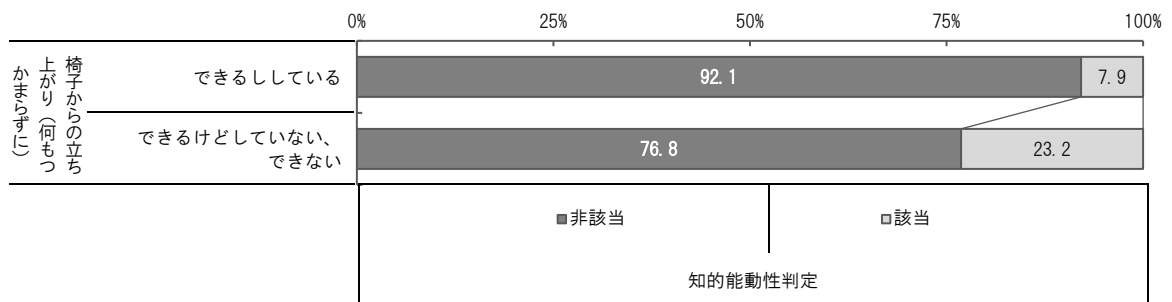
○椅子からの立ち上がりと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、椅子からの立ち上りを「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.21 問2(2) 椅子からの立ち上がり×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
(何もつかまらずに) 椅子からの立ち上がり	できるししている	5,998	514	6,512
	期待値	5,790.5	721.5	
	できるけどしていない、できない	1,321	398	1,719
	期待値	1,528.5	190.5	
合計		7,319	912	8,231

p値=0.000

図2.23 問2(2) 椅子からの立ち上がり×知的能動性判定



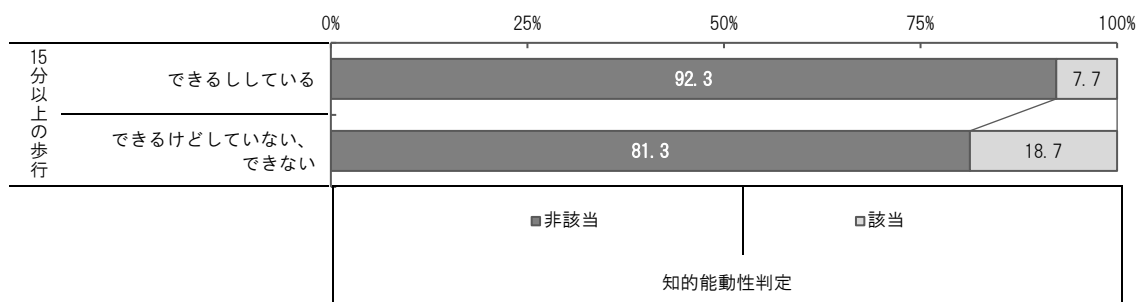
○15分以上の歩行と知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、15分以上の歩行を「できるししている」グループは、「できるけどしていない、できない」グループより、知的能動性判定「非該当」の割合が高くなっています。

表2.22 問2(3) 15分以上の歩行×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
15分以上の歩行	できるししている	5,318	446	5,764
	期待値	5,127.7	636.3	
	できるけどしていない、できない	2,015	464	2,479
	期待値	2,205.3	273.7	
合計		7,333	910	8,243

p値=0.000

図2.24 問2(3) 15分以上の歩行×知的能動性判定



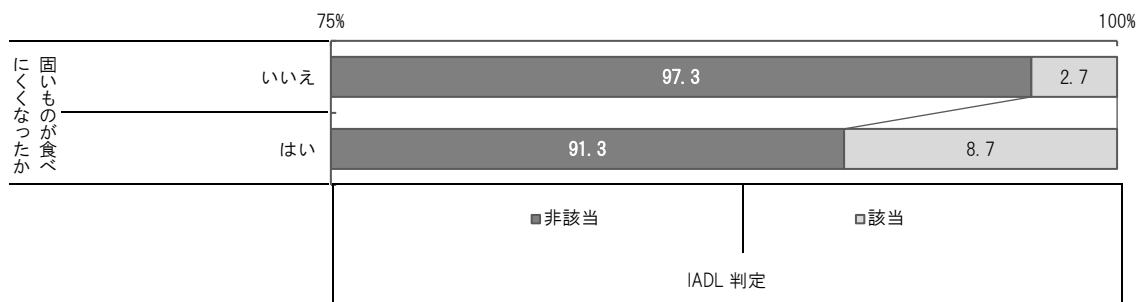
○固いものが食べにくくなったかとIADL判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、固いものが食べにくくなったかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.23 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合 計
固いものが食べにくくなったか	いいえ	5,600	157	5,757
	期待値	5,498.9	258.1	
	はい	2,199	209	2,408
	期待値	2,300.1	107.9	
	合 計	7,799	366	8,165

p値=0.000

図2.25 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×IADL判定



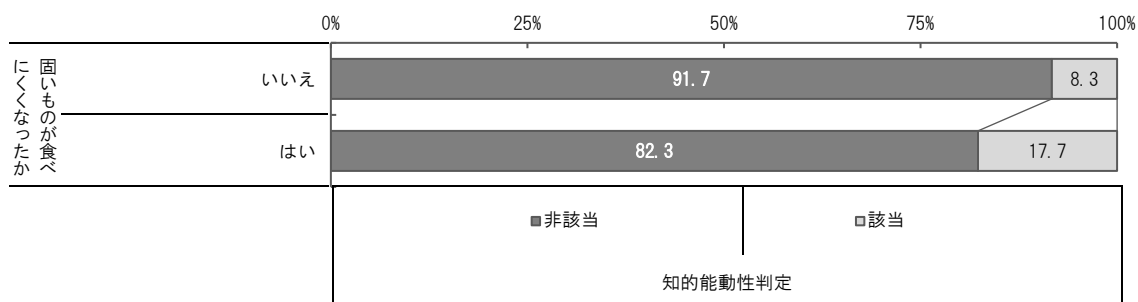
○固いものが食べにくくなったかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、固いものが食べにくくなったかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.24 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
固いものが食べにくくなったか	いいえ	5,338	483	5,821
	期待値	5,176.4	644.6	
	はい	2,010	432	2,442
	期待値	2,171.6	270.4	
	合計	7,348	915	8,263

p値=0.000

図2.26 問3(2) 固いものが食べにくくなったか×知的能動性判定



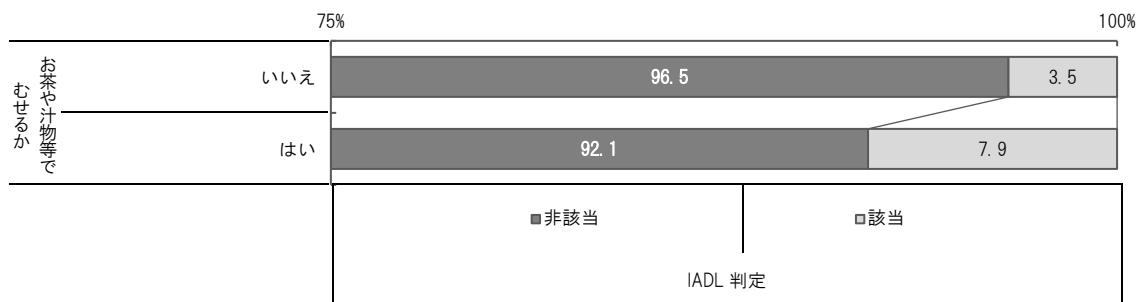
○お茶や汁物でむせるかと IADL 判定の分割表をみると有意差がみられ(p 値=0.000)、お茶や汁物でむせるかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、IADL 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.25 問3(3) お茶や汁物でむせるか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
お茶や汁物等でむせるか	いいえ	6,205	222	6,427
	期待値	6,141.4	285.6	
	はい	1,686	145	1,831
	期待値	1,749.6	81.4	
	合計	7,891	367	8,258

p 値=0.000

図2.27 問3(3) お茶や汁物でむせるか×IADL判定



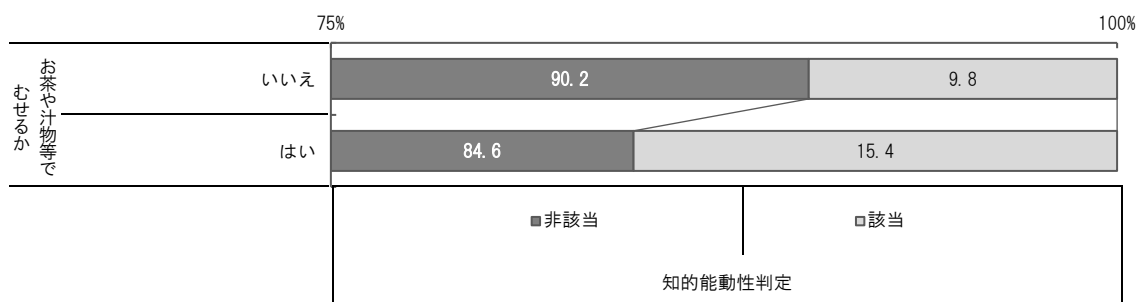
○お茶や汁物でむせるかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、お茶や汁物でむせるかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.26 問3(3) お茶や汁物でむせるか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
お茶や汁物等でむせるか	いいえ	5,823	633	6,456
	期待値	5,743.0	713.0	
	はい	1,563	284	1,847
	期待値	1,643.0	204.0	
	合計	7,386	917	8,303

p値=0.000

図2.28 問3(3) お茶や汁物でむせるか×知的能動性判定



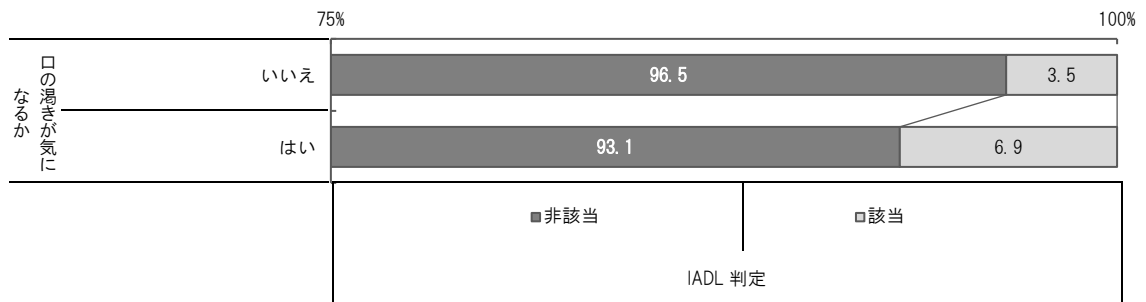
〇口の渴きが気になるかとIADL判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、  
 □口の渴きが気になるかで「いいえ」のグループは、「はい」のグループより、IADL判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.27 問3(4) 口の渴きが気になるか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
口の渴きが気になるか	いいえ	5,987	219	6,206
	期待値	5,935.9	270.1	
	はい	1,859	138	1,997
	期待値	1,910.1	86.9	
	合計	7,846	357	8,203

p値=0.000

図2.29 問3(4) 口の渴きが気になるか×IADL判定



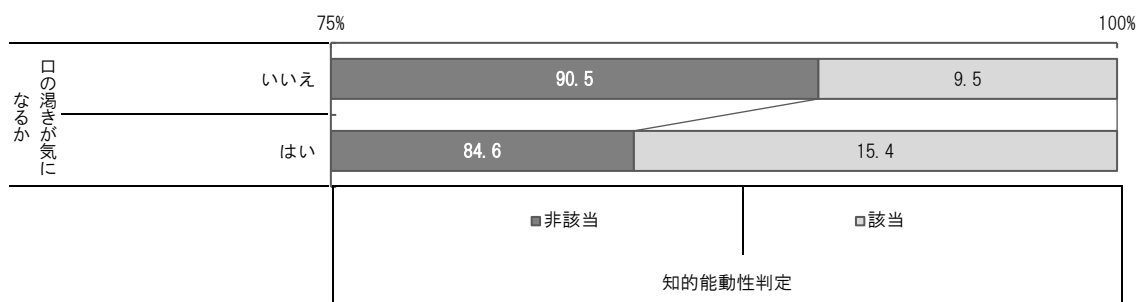
〇口の渴きが気になるかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、  
 □の渴きが気になるかで「いいえ」のグループは、「はい」グループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.28 問3(4) 口の渴きが気になるか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
口の渴きが気になるか	いいえ	5,642	592	6,234
	期待値	5,552.8	681.2	
	はい	1,702	309	2,011
	期待値	1,791.2	219.8	
	合計	7,344	901	8,245

p値=0.000

図2.30 問3(4) 口の渴きが気になるか×知的能動性判定





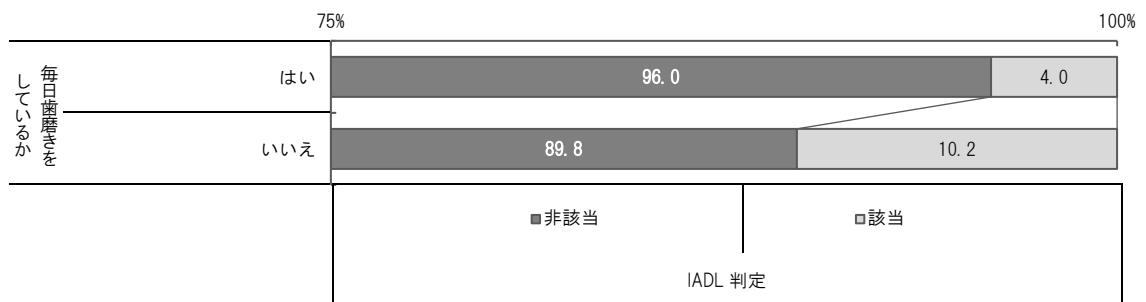
○毎日歯磨きをしているかと IADL 判定の分割表をみると有意差がみられ(p 値=0.000)、毎日歯磨きをしているかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、IADL 判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.29 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×IADL判定の分割表

		IADL 判定		
		非該当	該当	合計
毎日歯磨きをしているか	はい	7,374	308	7,682
	期待値	7,342.3	339.7	
	いいえ	494	56	550
	期待値	525.7	24.3	
	合計	7,868	364	8,232

p 値=0.000

図2.31 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×IADL判定



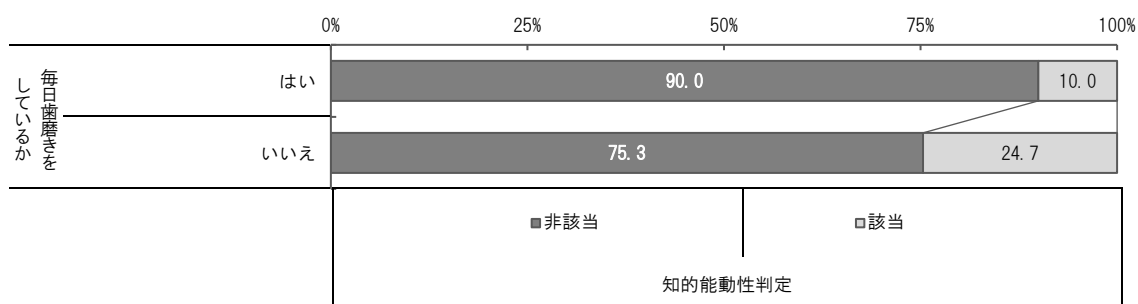
○毎日歯磨きをしているかと知的能動性判定の分割表をみると有意差がみられ（p 値 =0.000）、毎日歯磨きをしているかで「はい」のグループは、「いいえ」のグループより、知的能動性判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.30 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×知的能動性判定の分割表

		知的能動性判定		
		非該当	該当	合計
毎日歯磨きをしているか	はい	6,948	774	7,722
	期待値	6,872.1	849.9	
	いいえ	418	137	555
	期待値	493.9	61.1	
	合計	7,366	911	8,277

p値=0.000

図2.32 問3(5) 毎日歯磨きをしているか×知的能動性判定



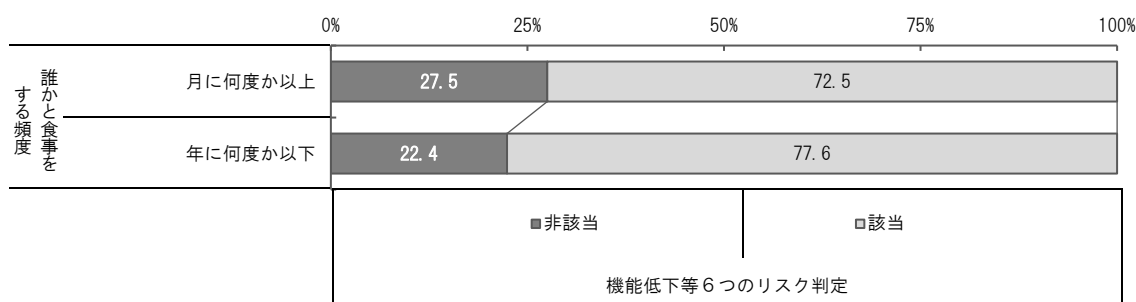
○誰かと食事をする頻度と機能低下等6つのリスク判定の分割表をみると有意差がみられ (p値=0.000)、誰かと食事をする頻度で「月に何度か以上」のグループは、「月に何度か以下」のグループより、機能低下等6つのリスク判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.31 問3(8) 誰かと食事をする頻度×機能低下等6つのリスク判定の分割表

		機能低下等6つのリスク判定		
		非該当	該当	合計
誰かと食事をする頻度	月に何度か以上	1,903	5,011	6,914
	期待値	1,841.2	5,072.9	
	年に何度か以下	328	1,136	1,464
	期待値	389.9	1,074.2	
	合計	2,231	6,147	8,378

p値=0.000

図2.33 問3(8) 誰かと食事をする頻度×機能低下等6つのリスク判定



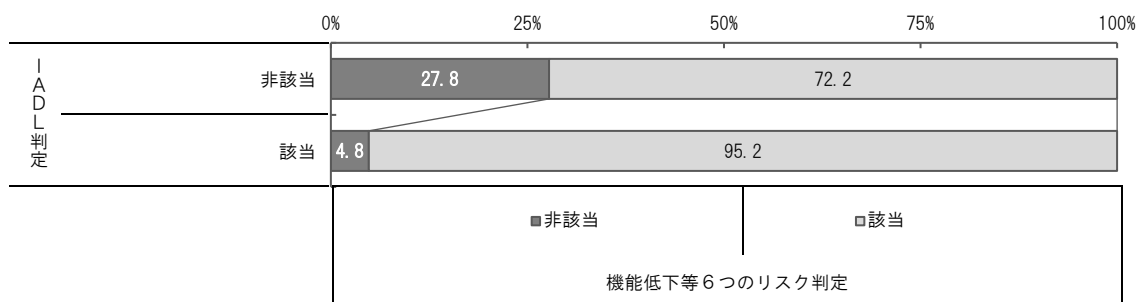
○ IADL 判定と機能低下等6つのリスク判定の分割表をみると有意差がみられ (p 値 =0.000)、IADL 判定で「非該当」のグループは、「該当」のグループより、機能低下等6つのリスク判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.32 IADL判定×機能低下等6つのリスク判定の分割表

		機能低下等6つのリスク判定		
		非該当	該当	合計
IADL判定	非該当	2,203	5,735	7,938
	期待値	2,121.3	5,816.7	
	該当	18	355	373
	期待値	99.7	273.3	
	合計	2,221	6,090	8,311

p値=0.000

図2.34 IADL判定×機能低下等6つのリスク判定



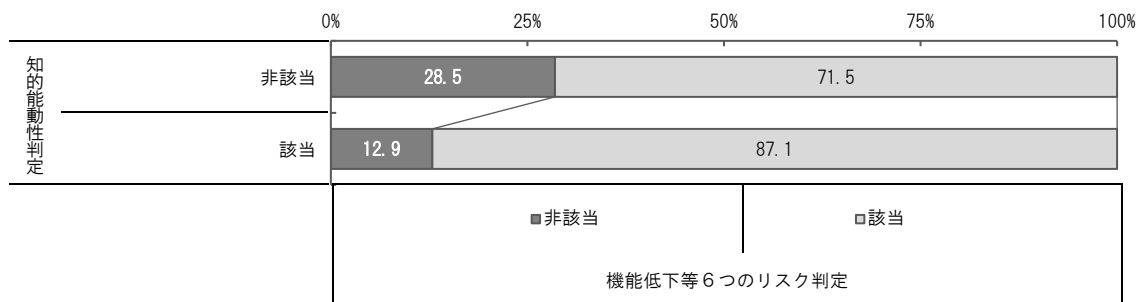
○知的能動性判定と機能低下等6つのリスク判定の分割表をみると有意差がみられ（p 値 =0.000）、知的能動性判定で「非該当」のグループは、「該当」グループより、機能低下等6つのリスク判定で「非該当」の割合が高くなっています。

表2.33 知的能動性判定×機能低下等6つのリスク判定の分割表

		機能低下等6つのリスク判定		
		非該当	該当	合 計
知的能動性判定	非該当	2,131	5,345	7,476
	期待値	2,001.2	5,474.8	
	該当	121	816	937
	期待値	250.8	686.2	
	合 計	2,252	6,161	8,413

p値=0.000

図2.35 知的能動性判定×機能低下等6つのリスク判定



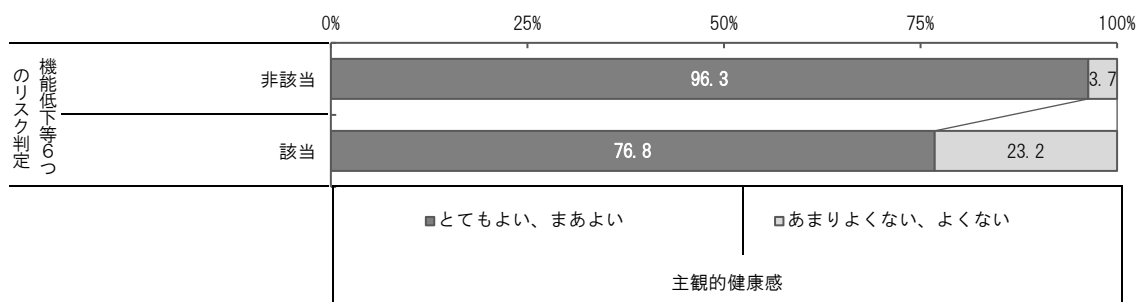
○機能低下等6つのリスク判定と主観的健康感の分割表をみると有意差がみられ（p 値 =0.000）、機能低下等6つのリスク判定で「非該当」のグループは、「該当」のグループより、主観的健康感で「とてもよい、まあよい」の割合が高くなっています。

表2.34 機能低下等6つのリスク判定×問7(1) 主観的健康感の分割表

		主観的健康感		
		とてもよい、まあよい	あまりよくない、よくない	合 計
機能低下等6つのリスク判定	非該当	2,155	82	2,237
	期待値	1,835.4	401.6	
	該当	4,673	1,412	6,085
	期待値	4,992.6	1,092.4	
	合 計	6,828	1,494	8,322

p値=0.000

図2.36 機能低下等6つのリスク判定×問7(1) 主観的健康感



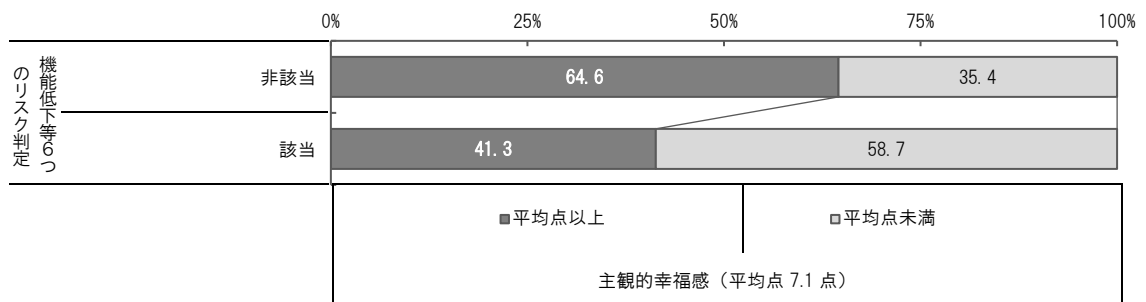
○機能低下等6つのリスク判定と主観的幸福感の分割表をみると有意差がみられ（p 値 =0.000）、機能低下等6つのリスク判定で「非該当」のグループは、「該当」のグループより、主観的幸福感で「平均点（7.1点）以上」の割合が高くなっています。

表2.35 機能低下等6つのリスク判定×問7(2) 主観的幸福感の分割表

		主観的幸福感（平均点 7.1 点）		
		平均点以上	平均点未満	合 計
機能低下等6つのリスク判定	非該当	1,423	781	2,204
	期待値	1,048.3	1,155.8	
	該当	2,487	3,530	6,017
	期待値	2,861.8	3,155.3	
	合 計	3,910	4,311	8,221

p値=0.000

図2.37 機能低下等6つのリスク判定×問7(2) 主観的幸福感



## 2 要介護者等のビジョンに関連した分析

### (1) 「本人」の在宅生活の継続性の確保

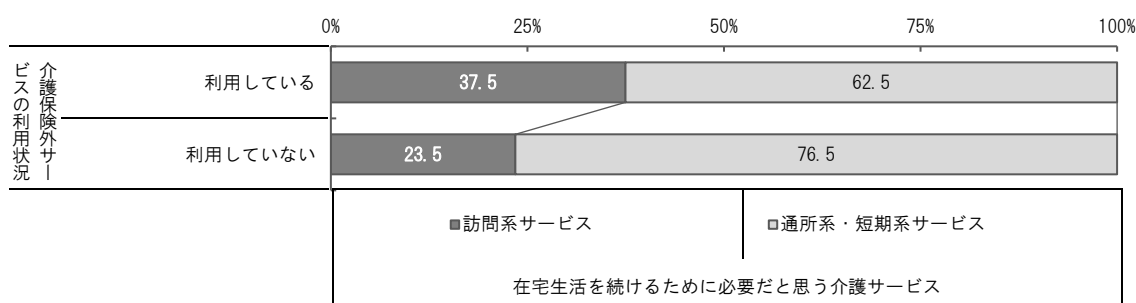
○介護保険サービス以外のサービスの利用の有無と在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、介護保険サービス以外のサービスの利用の有無で「利用している」グループは、「利用していない」グループより、在宅生活を続けるために必要だと思うサービスで「訪問系サービス」の割合が高くなっています。

表2.36 [問8] 介護保険サービス以外のサービスの利用の有無  
× [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表

		在宅生活を続けるために必要だと思う介護サービス		
		訪問系サービス	通所系・短期系サービス	合計
介護保険外サービスの利用状況	利用している	405	676	1,081
	期待値	310.7	770.3	
	利用していない	419	1,367	1,786
	期待値	513.3	1,272.7	
	合計	824	2,043	2,867

p値=0.000

図2.38 [問8] 介護保険サービス以外のサービスの利用の有無  
× [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス





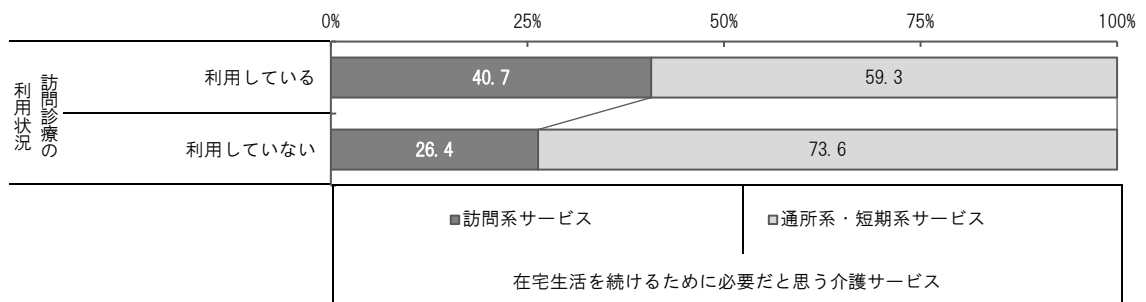
○訪問診療の利用状況と在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表をみると有意差がみられ(p値=0.000)、訪問診療の利用状況で「利用している」グループは、「利用していない」グループより、在宅生活を続けるために必要だと思うサービスで「訪問系サービス」の割合が高くなっています。

表2.37 [問12] 訪問診療の利用状況  
× [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービスの分割表

		在宅生活を続けるために必要だと思う介護サービス		
		訪問系サービス	通所系・短期系サービス	合計
訪問診療の利用状況	利用している	176	256	432
	期待値	122.8	309.2	
	利用していない	678	1,895	2,573
	期待値	731.2	1,841.8	
	合計	854	2,151	3,005

p値=0.000

図2.39 [問12] 訪問診療の利用状況 × [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス



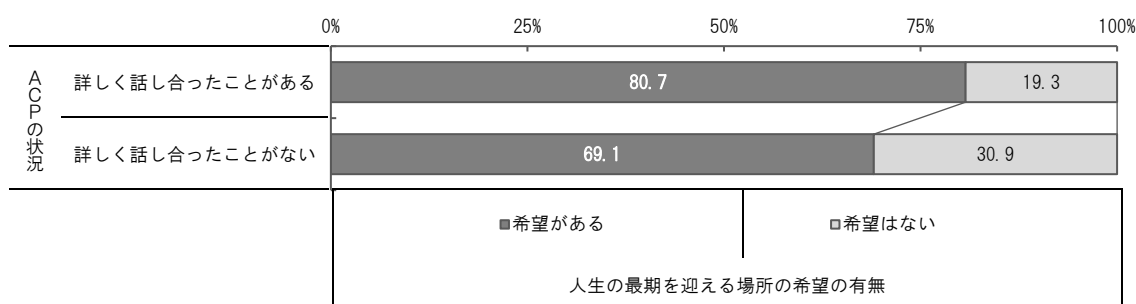
○ACP の状況と人生の最期を迎える場所の希望の有無の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、ACP の状況で「詳しく話し合ったことがある」グループは、「詳しく話し合ったことがない」グループより、人生の最期を迎える場所の希望の有無で「希望がある」の割合が高くなっています。

表2.38 [問17] ACPの状況 × [問18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無の分割表

		人生の最期を迎える場所の希望の有無		
		希望がある	希望はない	合計
ACP の 状況	詳しく話し合ったことがある	289	69	358
	期待値	251.5	106.5	
	詳しく話し合ったことがない	2,176	975	3,151
	期待値	2,213.5	937.5	
合計		2,465	1,044	3,509

p 値=0.000

図2.40 [問17] ACPの状況 × [問18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無



ACP：アドバンス・ケア・プランニングの略で、「人生会議」ともいう。もしものときのために本人が大切にしていることや本人が望む医療や介護について自ら考え、また、周囲の信頼する人たちと話し合うこと。

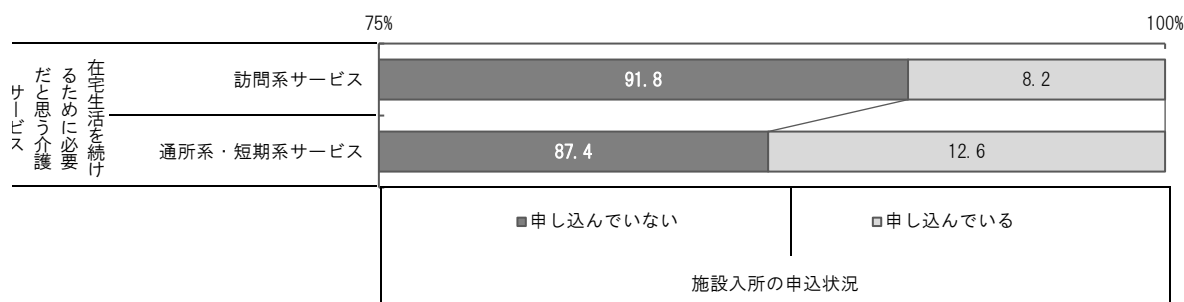
○在宅生活を続けるために必要だと思うサービスと施設入所の申込状況の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.001)、在宅生活を続けるために必要だと思うサービスで「訪問系サービス」のグループは、「通所系・短期系サービス」のグループより、施設入所の申込状況で「申し込んでいない」割合が高くなっています。

表2.39 [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス × [問10] 施設入所の申込状況の分割表

		施設入所の申込状況		
		申し込んでいない	申し込んでいる	合計
必要だと思う介護サービス 在宅生活を続けるために	訪問系サービス	775	69	844
	期待値	748.1	95.9	
	通所系・短期系サービス	1,876	271	2,147
	期待値	1,902.9	244.1	
	合計	2,651	340	2,991

p 値=0.001

図2.41 [問9-1] 在宅生活を続けるために必要だと思うサービス × [問10] 施設入所の申込状況



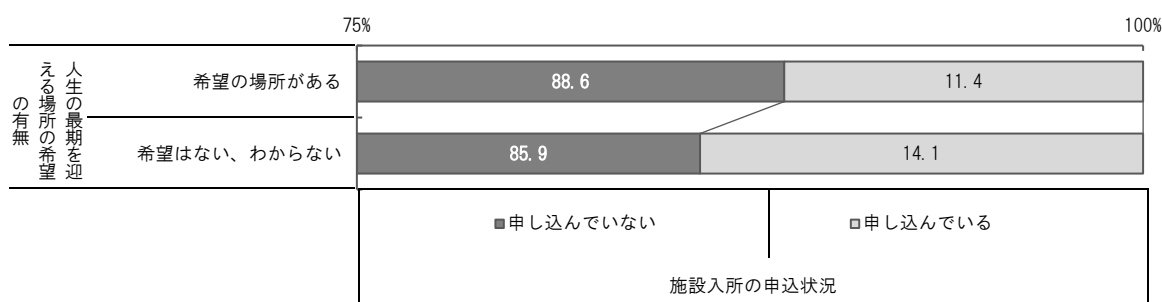
○人生の最期を迎える場所の希望の有無と施設入所の申込状況の分割表をみると有意差がみられ（p 値=0.029）、人生の最期を迎える場所の希望の有無で「希望の場所がある」グループは、「希望はない、わからない」グループより、施設入所の申込状況で「申し込んでいない」の割合が高くなっています。

表2.40 [問18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無 × [問10] 施設入所の申込状況の分割表

		施設入所の申込状況		
		申し込んでいない	申し込んでいる	合計
希望の有無	人生の最期を迎える場所の希望の場所がある	2,143	276	2,419
	期待値	2,123.9	295.2	
	希望はない、わからない	872	143	1,015
	期待値	891.2	123.9	
合計		3,015	419	3,434

p 値=0.029

図2.42 [問18] 人生の最期を迎える場所の希望の有無 × [問10] 施設入所の申込状況



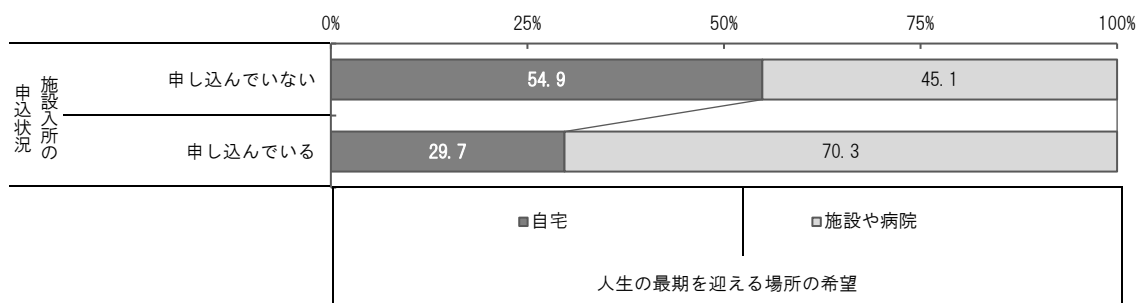
○施設入所の申込状況と人生の最期を迎える場所の希望の分割表をみると有意差がみられ（p値=0.000）、施設入所の申込状況で「申し込んでいない」グループは、「申し込んでいる」グループより、人生の最期を迎える場所の希望で「自宅」の割合が高くなっています。

表2.41 [問10] 施設入所の申込状況 × [問18] 人生の最期を迎える場所の希望の分割表

		人生の最期を迎える場所の希望		
		自宅	施設や病院	合計
施設入所の申込状況	申し込んでいない	1,176	967	2,143
	期待値	1114.5	1028.5	
	申し込んでいる	82	194	276
	期待値	143.5	132.5	
	合計	1,258	1,161	2,419

p値=0.000

図2.43 [問10] 施設入所の申込状況 × [問18] 人生の最期を迎える場所の希望



## (2) 家族等「介護者」の就労継続

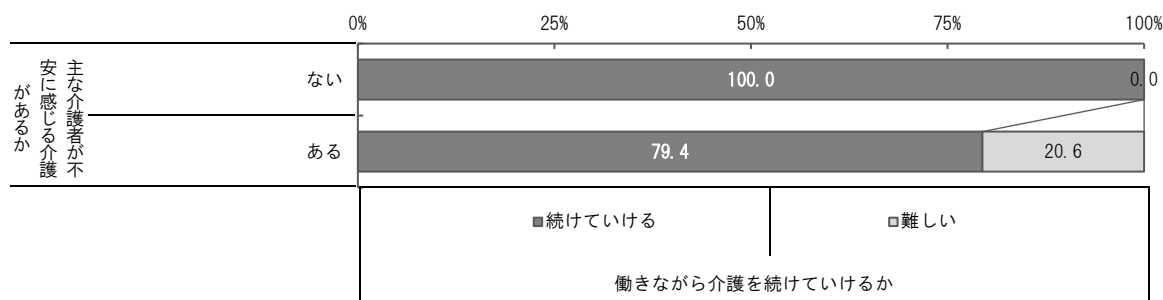
○不安を感じる介護の有無と今後も仕事と介護を両立できるかの分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.001)、主な介護者が不安を感じる介護があるかで「ない」グループは、「ある」グループより、働きながら介護を続けていけるかで「続けていける」割合が高くなっています。

表2.42 [問15] 不安を感じる介護の有無 × [問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるかの分割表

		働きながら介護を続けていけるか		
		続けていける	難しい	合計
主な介護者が不安を感じる介護があるか	ない	47	0	47
	期待値	37.7	9.3	
	ある	850	220	1,070
	期待値	859.3	210.7	
	合計	897	220	1,117

p 値=0.001

図2.44 [問15] 不安を感じる介護の有無 × [問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか



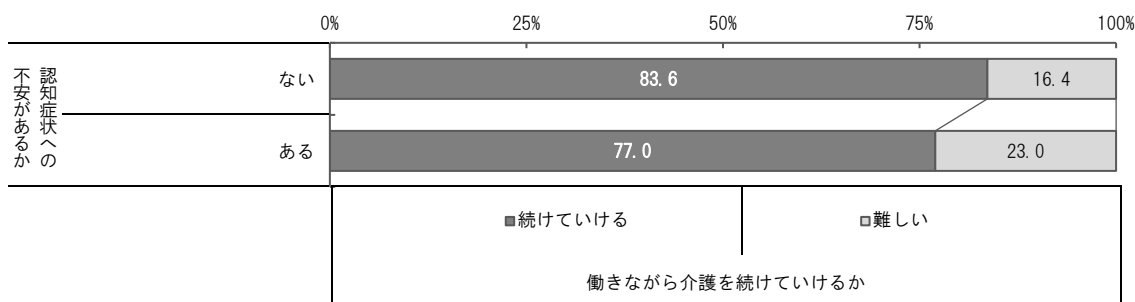
○認知症状に対する不安と今後も仕事と介護を両立できるかの分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.005)、認知症状に対する不安が「ない」グループは、「ある」グループより、働きながら介護を続けていけるかで「続けていける」割合が高くなっています。

表2.43 [問15] 認知症状に対する不安×[問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるかの分割表

		働きながら介護を続けていけるか		
		続けていける	難しい	合 計
認知症状への不安があるか	ない	465	91	556
	期待値	446.5	109.5	
	ある	432	129	561
	期待値	450.5	110.5	
	合 計	897	220	1,117

p 値=0.005

図2.45 [問15] 認知症状に対する不安×[問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか



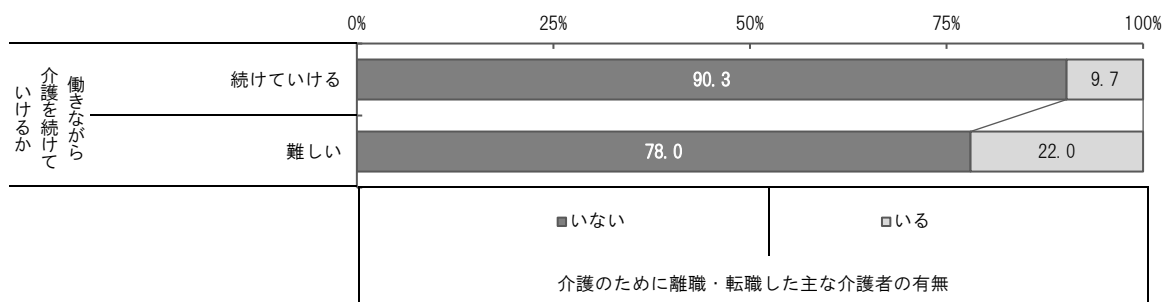
○今後も仕事と介護を両立できるかと介護離職・転職の状況の分割表をみると有意差がみられ (p 値=0.000)、働きながら介護を続けていけるかで「続けていける」グループは、「難しい」グループより、介護のために離職・転職した主な介護者の有無で「いない」の割合が高くなっています。

表2.44 [問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか×[問7] 介護離職・転職の状況の分割表

		介護のために離職・転職した主な介護者の有無		
		いない	いる	合計
働きながら 介護を 続けて いけるか	続けていける	621	67	688
	期待値	604.8	83.2	
	難しい	128	36	164
	期待値	144.2	19.8	
合計		749	103	852

p 値=0.000

図2.46 [問14-3] 今後も仕事と介護を両立できるか×[問7] 介護離職・転職の状況





### (3) 「サービス提供体制」の確保

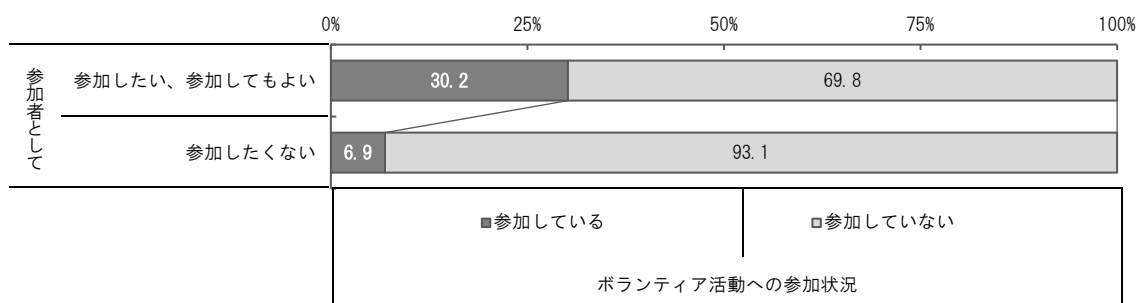
○参加者としての社会参加意向と社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表をみると有意差がみられ（p値=0.000）、参加者として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、ボランティア活動への参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.45 問5(2) 参加者としての社会参加意向  
×問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表

		ボランティア活動への参加状況		
		参加している	参加していない	合計
参加者として	参加したい、参加してもよい	1,135	2,629	3,764
	期待値	829.4	2,934.6	
	参加したくない	139	1,879	2,018
	期待値	444.6	1,573.4	
	合計	1,274	4,508	5,782

p値=0.000

図2.47 問5(2) 参加者としての社会参加意向×問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加



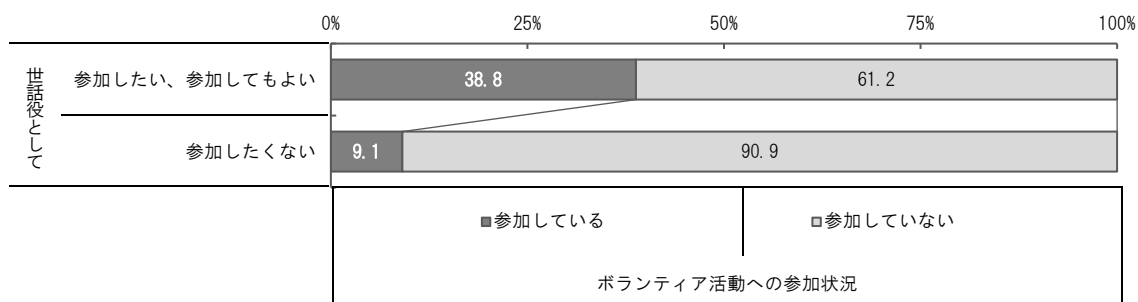
○世話役としての社会参加意向と社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表をみると有意差がみられ（p 値=0.000）、世話役として「参加したい、参加してもよい」グループは、「参加したくない」グループより、ボランティア活動への参加状況で「参加している」割合が高くなっています。

表2.46 問5(3) 世話役としての社会参加意向  
×問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加の分割表

		ボランティア活動への参加状況		
		参加している	参加していない	合計
世話役として	参加したい、参加してもよい	956	1,508	2,464
	期待値	541.1	1,922.9	
	参加したくない	293	2,931	3,224
	期待値	707.9	2,516.1	
	合計	1,249	4,439	5,688

p 値=0.000

図2.48 問5(3) 世話役としての社会参加意向 × 問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加



○社会参加活動（ボランティア）への参加と地域で支援できることの分割表をみると有意差がみられ(p 値=0.000)、ボランティア活動への参加状況で「参加している」グループは、「参加していない」グループより、地域で支援できることが「ある」割合が高くなっています。

表2.47 問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加×問5(4) 地域で支援できることの分割表

		地域で支援できること		
		ある	ない	合計
ボランティア活動への参加状況	参加している	1,193	64	1,257
	期待値	946.4	310.6	
	参加していない	3,040	1,325	4,365
	期待値	3,286.6	1,078.4	
	合計	4,233	1,389	5,622

p 値=0.000

図2.49 問5(1)① 社会参加活動（ボランティア）への参加×問5(4) 地域で支援できること

